日本農業新聞　令和元年８月６日掲載

農業技術プリズム

黄化葉巻病に強いトマト

不良果収量が少なく「麗旬」の安定生産期待

トマト黄化葉巻病は、トマト黄化葉巻ウイルスによる病害で、タバココナジラミによって媒介されます。

感染すると新葉の葉縁から退緑、黄化し葉巻症状が起き、やがて縮葉症状となって開花しても結実しにくく収量が激減します。また、発病すると回復は望めず、他の株への伝染源となるので、抜き取って圃場（ほじょう）外に持ち出して処分せざるを得ません。

そこで、黄化葉巻病に耐病性を持つ品種「麗旬」の栽培特性を把握するため、罹病性品種である「麗容」との比較試験を行いました。

２年間の試験の結果、黄化葉巻病耐病性品種「麗旬」は、「麗容」に比べ総収量で約２割、可販果収量で約１割少なくなりました。しかし、「麗旬」は不良果収量が少ない特性があり、可販果割合は「麗容」より高くなりました。

この結果から、「麗旬」は「麗容」に比べ収量性が劣るものの、黄化葉巻病の発生による「麗容」の欠株率が12％以上になると「麗旬」の10アール当たり販売額は「麗容」に比べ高くなると試算されました。

以上のことから、黄化葉巻病発生圃場においては、耐病性品種「麗旬」での安定生産が期待されます。

（長崎県農林技術開発センター農産園芸研究部門野菜研究室主任研究員　柴田哲平）

「麗旬」および「麗容」の収量と可販果割合

品種	黄化葉巻病	総収量（t/10a）	可販果収量（t/10a）	不良果収量（t/10a）	可販果割合（%）
麗旬	耐病性	19.3（81）	16.1（88）	3.2	83.4%
麗容	罹病性	23.7（100）	18.2（100）	5.5	76.9%

※（　）内の数字は「麗容」を100とした場合の比率
※栽培期間中、両品種ともに黄化葉巻病の発生なし